

図画工作科学学習指導案

向島町立三幸小学校 石原 政信

1. 日 時 平成15年11月14日(金) 第3校時
2. 学 年 第6学年 男子17名 女子12名 計29名
3. 題材名 「うたのしま まるごと美術館」～デジタルコラージュを活用して～ A(2)
4. 題材設定の理由

○ 本学級の児童は、昨年度、「うたのしまビエンナーレを作ろう」という題材で、写真合成の技術を体験し、普段では表現できない想像の世界を楽しむ経験を行った。また、1学期には、「動くぞ動くぞ～ほっと Hot コマーシャルを作ろう～」という題材で、自らの思いを届けるアニメーション作りを楽しみ行うことができた。これらの活動の中で、児童は、作品づくりは、自分の心を伝えていくことだと気づき、思いを表現する楽しさを一人一人が実感することができた。また、1学期末に行ったアンケートでは100%の児童がコンピュータを使った図画工作科の授業を好きだと答えている。作品に動きをつけることができたり、実際にはできないことを表現できたりするというコンピュータでしかできない表現方法が印象に残ったという児童が多く、自らのイメージを表現する手段としてのコンピュータの可能性を改めて感じる結果になった。

また、同じアンケートの中で児童は、図画工作科という教科を学ぶことの意義について、「イメージが広がる楽しさがある」「想像する力がつき、自分の夢をふくらませることができる」「他の人の作品を見て、その人のよさを感じることができる」「自分には自分の個性があって、人とは違う良さに気付くことができる」「自分自身に自信がもてるようになる」というようなとらえ方をしていた。図画工作科という教科のもつ特性を児童は着実に感じながら、成長してきていることを実感させられた。このような児童の思いを大切にするためにも、豊かな情操を培う教科としての図画工作科の役割を再認識し、教師としては、いかに効果的な題材配列を計画するか、また児童と題材との出会いをどう設定するかが問われると感じている。

昨年度から「イメージ豊かに発想する」「自分がイメージしたように描く」という点を課題として題材設定の工夫や導入段階に多様な鑑賞活動を設定する等の工夫を行い、実践を重ねてきた。継続して行ってきたクロッキー活動に対しても、80%以上の子どもたちが楽しく活動ができたという結果であった。「何気なく見ているものの中に新しい発見があった」「クロッキーをしながら動物も植物も生きているということを実感できた」というような児童の感想からも、クロッキー活動を通じて、ものの見方や感じ方が培われてきていることが伺える。

また、相互鑑賞の機会を授業の中に積極的に取り入れ、児童相互に刺激を与え合うこと、図工ノートの活用による自己評価活動の工夫等を継続的にを行い、取り組んできたことが、少しずつではあるが児童の発想力を柔軟にする結果につながったと考えている。しかし、児童は、生まれた発想をどう具体化するかという構想の段階でとまどう傾向も見られる。そのため、試行錯誤が自由に行えるコンピュータの活用は、児童の構想力を培うためには有効な手段だ考える。

○ 本題材は、自らが暮らす向島の町の風景や植物、動物を含めた自然等を改めて見つめ、見慣れた風景や自然の中に、自分が気に入っている場所やものを見つけ、絵に描き、集めた素材をデジタル化した上でコラージュとして作品にし、多くの人々に鑑賞してもらおうという題材である。

また、作品は、絵画として完成させた後、自らの画像を加えたり、キャッチコピーを配置してポスターにしたりと、作品づくりとしての多様な発展要素を持たせたい。

この学習と同時に児童は「向島 それは僕らの夢産地」というテーマでの総合学習を展開していく予定である。この総合学習は、地域の自然、人、社会、文化等を見つめ直し、自己と地域の関係や地域社会の中での自分の生き方について考える力を養うことに主眼をおいて、自らの町づくり提案を行っていく学習である。

本学級では100%の児童が自らが暮らす向島の町に対する印象を「好き」ととらえている。「自

然が豊かで、人と人の交流もあり、優しく親切な人が多い」「特産物も多く、伸び伸びと過ごせる町である」という印象を持っている児童が多い。自らの町を肯定的に見つめている児童に、我が町をより一層アピールする方法として図画工作科を位置づけ、総合学習との関連を図っていききたい。

また、本校では、「心を耕す教育」を中心に据えて教育活動を展開している。この題材においても、地域を見つめる、地域を愛する心情を育てることを意識させたいと考える。毎日学校へ通う道から見える景色や、よくみんなと遊ぶ場所、心癒される風景、自分を見守り続けてくれる建物や樹々、季節によって新鮮な美しさを見せてくれる場所など、自分が好きな風景がきっとあるだろう。その風景をベースに、向島の特徴を表すものや、季節感を表すものをコラージュとして重ね合わせ、画面構成を行う楽しさを体験する過程の中できっと新たな町に対するイメージが生まれてくると考えられる。

描画活動を基本に、デジタルコラージュ技法を生かした表現活動を行うことで、イメージ豊かに一人一人が思いをこめた表現活動が展開できると考え、本題材を設定した。

○ 指導に当たっては、次の点に留意をして学習を進めていきたい。

- ①コラージュという技法による表現方法の楽しさ、画面構成の工夫等を楽しむ鑑賞活動を最初に位置づけ、児童の興味を喚起し、製作活動への意欲化を図る。
- ②各地の町で作られている観光ポスターを取り上げ、自らの地域をどのようにアピールしているか、画面構成の工夫とともに、素材の取り上げ方にも注目させる。
- ③自分の暮らす町をどのように表現するか、その第一歩としてキャッチコピー作りを通じて、どんな素材をモチーフにするかを決定させる。
- ④素材作り（描画製作）では、教職員、保護者の協力を得て、町のスケッチワークを企画し、向島を象徴する風景やものの描画活動を展開する。
- ⑤クロッキー活動での作品も素材として有効に利用させる。
- ⑥製作活動の途中に鑑賞の機会を作り、相互にアドバイスを受けながら、よりよい作品作りへと発展させる。また、授業後の自己評価活動を継続して行い、児童の製作活動の状態を個別に把握しながら、支援を行う。
- ⑦完成後の作品に関しては、「三幸小ホームページ」内の「三幸ギャラリー」に公開し、広く地域へも発信し、また自分たちの卒業アルバム CD へ掲載することを児童へ告げ、製作の意欲化を図る。

そうすることによって、児童は、イメージ豊かに発想し、自らが表現したい町のイメージを自在に表現し、活動の中で一層我が町への愛着を覚えるのではないだろうかと期待する。

5. 題材の目標

- 地域への愛着を持って、普段の生活の中で好きな風景を絵に楽しく表す。
- 描き表したい素材の特徴をつかみ、画面構成や色の使い方を工夫する。
- スキャナーの使い方を身につけ、コンピュータを活用したコラージュの楽しさを味わい、表現したいイメージに即して機器を活用することができる。
- 作品から感じる思いを自分なりの見方・感じ方で深く鑑賞することができる。

6. 題材の評価規準

観点		題材の評価規準	学習活動における具体的な評価規準
ア	造形への関心・意欲	地域への愛着を持って、好きな風景を楽しく描き、表現活動を行	①自分なりのコラージュ作品づくりを目指して造形活動を楽しんでいる。 ②コラージュに必要な素材を楽しく描画しようとし

表現		・ 態度	うことができる。	ている。 ③表現活動を振り返り、次時へ意欲的な見通しをも ととしている。
	イ	発想や構 想の能力	コラージュ技法を知 り、仕上がりまでの見 通しをもち、製作をす めることができる。	①ソフトウェアを活用したコラージュの原理を理解 することができる。 ②自らが表したいイメージのためのモチーフを決定 し、素材選択ができる。 ③ 拡大・縮小、変形、回転、重ねる等の技術を生 かして画面構成を工夫している。
	ウ	創造的な 技能	風景にたくした思いが よく伝わるように画面 構成や絵の具の使い 方、コンピュータを使 ったコラージュ等を工 夫して表現している。	①素材に合わせた描画表現を行うことができる。 ②スキャナーの使い方を知り、必要なものを必要な 大きさにデジタルデータとして取り込むことがで きる。 ③フォトタッチソフトの基本的な使い方を知り、 コラージュ作品を作成することができる。
鑑賞	エ	造形への関 心・意欲・ 態度	友だちの作品の表し方 の工夫やよさを認め合 おうとしている。	①自分の表し方と友だちの表し方の違いに関心をも って見たり、共感したり、違いを感じたりして面 白さを味わおうとしている。
	オ	鑑賞の能力	町の観光ポスターやコ ラージュ技法を用いた 作品が表現しようとし ている思いを鑑賞し、 自分らしい見方や感じ 方を深める。	①様々な町の観光ポスターを見て、素材の取り上げ 方や画面構成の工夫を見取り、地域の特徴を表し た表現の楽しさを味わうことができる。 ②コラージュで作られた作品を鑑賞し、様々な要素 で構成された画面構成の楽しさと表現の豊かさを 感じ取ることができる。

7. 学習指導計画（鑑賞…1時間 表現…9時間 全10時間）

次	時	学習活動	指導・支援	評価規準	評価方法
1	1	町のポスターやコラージュ作品を鑑賞して、素材の扱い方、 画面構成の工夫を味わおう。			
		○地域の観光ポスターを 鑑賞する。	・ 地域の特徴に合わせた素材 の選択や、色彩の工夫等 について、感じたことを交流 させる。	オ①	行動観察
		○コラージュ技法を用い た作品を鑑賞する。	・ 画面構成の工夫や、表現技 法の楽しさについて、自分 なりの感じ方を交流する。	オ②	行動観察 評価 ボード
		「うたのしま まるごと美術館」を描こう ～デジタルコラージュを活用して～			
		○私たちの町「向島」の 特徴を表すキャッチコ	・「〇〇の町、向島」というコ ピー作りを通して、自分達	イ②	ワーク シート

		ピーを話し合い、考える。 ○町の探索をし、スケッチを行う。	の暮らす町の特徴を考え、表現の素材となるものへの意識化を図る。 ・島内のフィールドワークを通して、自分が表現したい町の特徴を発見し、スケッチを行う。同時に資料としてデジタルカメラでの撮影も行う。	ア②	行動観察
2	7	○スケッチに彩色し、素材作りを行う。 ○スキャナーを用いて、素材をデジタルデータ化する。	・色彩の知識や絵の具の混色、配色、使用法を再度確認しながら、水彩表現を行う。 ・各自が彩色した素材を取り込み、デジタルコラージュのために、切り抜き作業も合わせて行わせる。	ウ① ウ② ア③	作品 行動観察 図工 ノート 評価 ボード
		自分のキャッチコピーに合わせた「うたのしま まるごと美術館」をコンピュータを活用して表現しよう。			
	1	○自ら描いた素材を用いて、画面構成を考える。	・自分の表現したい内容に合わせた素材選び、画面構成を考え、大きさ、配置、重なり等を考え、イメージスケッチを行う。	イ①	行動観察 ワーク シート
3	1 本時	○フォトタッチソフトを活用して、コラージュを行う。 ○完成作品を相互鑑賞しよう。	・ソフトウェアの操作方法について知らせ、児童一人一人の表現したい内容に合わせた操作の個別指導を行う。 ・付箋紙を用いて相互評価活動を行わせる。 ・自分にとって向島はどんな町なのか、表現したかった思いを書いた紹介文を紹介させる。	イ③ ウ③ エ①	行動観察 評価 カード 作文 評価 ボード
事後		○WEBへ登録し、公開する。	・「三幸ギャラリー」へ登録し、地域発信をさせる。	エ①	図工 ノート

8. 本時の展開

(1) 本時の目標 「うたのしま まるごと美術館」をコラージュの技法を用いて完成し、相互鑑賞を通して、友だちの作品の思いを受け取ることができる。

(2) 準備物

(教師) コンピュータ、フォトタッチソフト、付箋紙、評価ボード、プロジェクター

(児童) 作者の願いカード

(3) 学習の展開

学習活動	指導・支援	評価規準	評価方法
1. 本時の学習課題を知る。			
「うたのしま まるごと美術館」を完成し、お互いの作品を鑑賞しよう。			
2. フォトレタッチソフトウェアを用いて、コラージュ作品を完成させる。 ・ソフトウェアの操作方法を確認する。 ・ソフトウェアを使い、コラージュを行う。	・フォトレタッチソフトウェアを活用する。 ・拡大・縮小・回転・重なり順の変更等の技法を確認する。	ア① 自分なりのコラージュ作品づくりを目指して楽しく造形活動ができる。 イ③ 拡大・縮小・変形・回転・重なり等の技術を生かした画面構成を工夫できる。	行動観察
3. 完成作品を相互鑑賞しよう。 ・自由に鑑賞し、友だちの作品を評価する。 ・心に残った「うたのしま まるごと美術館」を紹介する。	・友だちの作品を随時鑑賞できる時間を確保し、付箋紙を用いて、評価の言葉を画面横へ添付させる。 ・鑑賞の視点を与える。 ①表したい内容と素材の配置の関係はどうか。 ②作者の「うたのしま」への思いはどう伝わったか。	エ① 自分の表し方と友だちの表し方の違いに関心を持って見たり、面白さを味ったりする。	付箋評価カード 行動観察 発表
4. 学習課題に対する自己評価を行う。 5. 次時の予告	・数名の児童に鑑賞の感想を述べさせ、その後、紹介された児童に「作者の願い」を語らせる。 ・評価ボードを用いて児童の課題解決意欲を把握する。	ア③ 表現活動を振り返り、次時へ意欲的な見通しをもつことができる。	図工ノート 評価ボード